

内なる対話～「意味ある世間話」となるや、否や?!～

堂本 彰夫

⑦ 今、また、「ヒューマン（人間であること?）」に目が向けられている?!それは、一体何故か？

I：ところで、最近、期せずしてと言いますか、ふと気がついてみますと、「ヒューマン human」（人間であること?）という言葉や言われ方が、あちこちで見聞されるように思うのですが、どうですか？

D：確かに、そう言われれば、過日のNHK番組だったと思いますが（4/22放送）、「ヒューマン・エイジ」（人間の時代）とか、そして、その後の「ヒューマニエンス humanience」（人間の科学：「ヒューマン」と「サイエンス」の合成語）とかいう番組を見れば、まさにそのように思えますね！

I：その過日のNHK番組ですが、それについては、「およそ6万年前、私たちホモ・サピエンスの祖先は、誕生の地・アフリカから地球全体へと広がる大冒険に乗り出しました。『出・アフリカ』と呼ばれる人類史上の大転換点です。その後、急速な進歩を遂げ、高度な科学技術を生み出すまでになった『人間』は、2022年3月、また新たな挑戦に乗り出しました。地球から6000万キロ以上も離れた『火星への移住』を目指そうというのです。まさに『出・地球』です。」と！

D：そして、「しかし同じころ、同じ地球の上で・・・人間の高度な技術が、戦争に使われて人間自身の命を奪い、あるいは環境を破壊し、地球の気候まで急速に変えつつあります。『人間』という生き物が、自分自身はおろか地球全体の未来をも左右する力を手にした現代。それは、『ヒューマン・エイジ（人間の時代）』とも呼ばれ始めています。行く先にあるのは、さらなる繁栄か、それとも破滅か。その答えを、壮大なスケールで探ります。」ということでしたよね！

I：「人間（人類）」が、いつのまにか、この地球を支配（破壊?）し、その結果、その地球自体の存続が危ぶまれている?そんな時代になっている?!「地球温暖化」とか、そういうことかと思いますが、ある意味、そういうところまで行きついている「人間（人類）」の「不思議さ（不可解さ?）」、否、「危うさ」を、「科学」の面から解き明かそうとしている?そういうことでもありますよね?!

D：あの番組が、そういうところまで意識して作られていたのかどうかは、今のところ、私には分かりませんが、かつて、近世（→近代）を創り出した「ルネサンス」（「再生」とか「復興」とかの意）では、「ヒューマンイズム（人間中心主義）」ということが言われたわけですが、その人間（人類）が、この現代にあっては、あまりにも「人間中心になり過ぎて?」、その成果（正の部分）はともかく、一方で、その多大なる悪影響（負の部分）が、皮肉にも顕著となってきた?!

I：だから、その「ヒューマン human（人間であること?）」について、改めて（もう一度?）考えてみようということになった?!そういうことなのでしょうね?!

D：もちろん、人類史の大局?からすれば、そういうことも言えるのかもしれませんが、実は、その問いかけ（再問）は、今まさに世界を震撼させている、あの人物、あの国の動きとも関連させて見れば、まさに、人間（国）とは、何とも不確かで、不思議な存在なのか?否、はっきり言って恐ろしい?!

I：まさに、「ヒューマン human」であることとはどういうことなのか?そういうことを、俄かに、そして強烈に、今また、我々の人間社会に、その答を求めてきているということでもある?!絶対にやってはいけないことがある!そのことは分かっているはずなのに、やってしまう（った）!本当に、「人間（人類）」とは何なのか?そういうことになりますよね?!

D：もちろん、それは、ある特定の（特殊な?）人間（国）のあり様であって、普通の、そして、大多数の人間（国）には妥当しない?基本的には、その前提で、世界は動いているはずですよ?!だから、「集団脳（協力するということ!）」が意味をもつ?!であれば、何故、そうなる（った）のか?是非、そういうことも、その番組で取り上げてくれたらよいのですが（先号の「総合知」に通じる?!）?しかし、それは、直接的には無理ですかね（まだまだ、それどころではない?）?!（つづく）